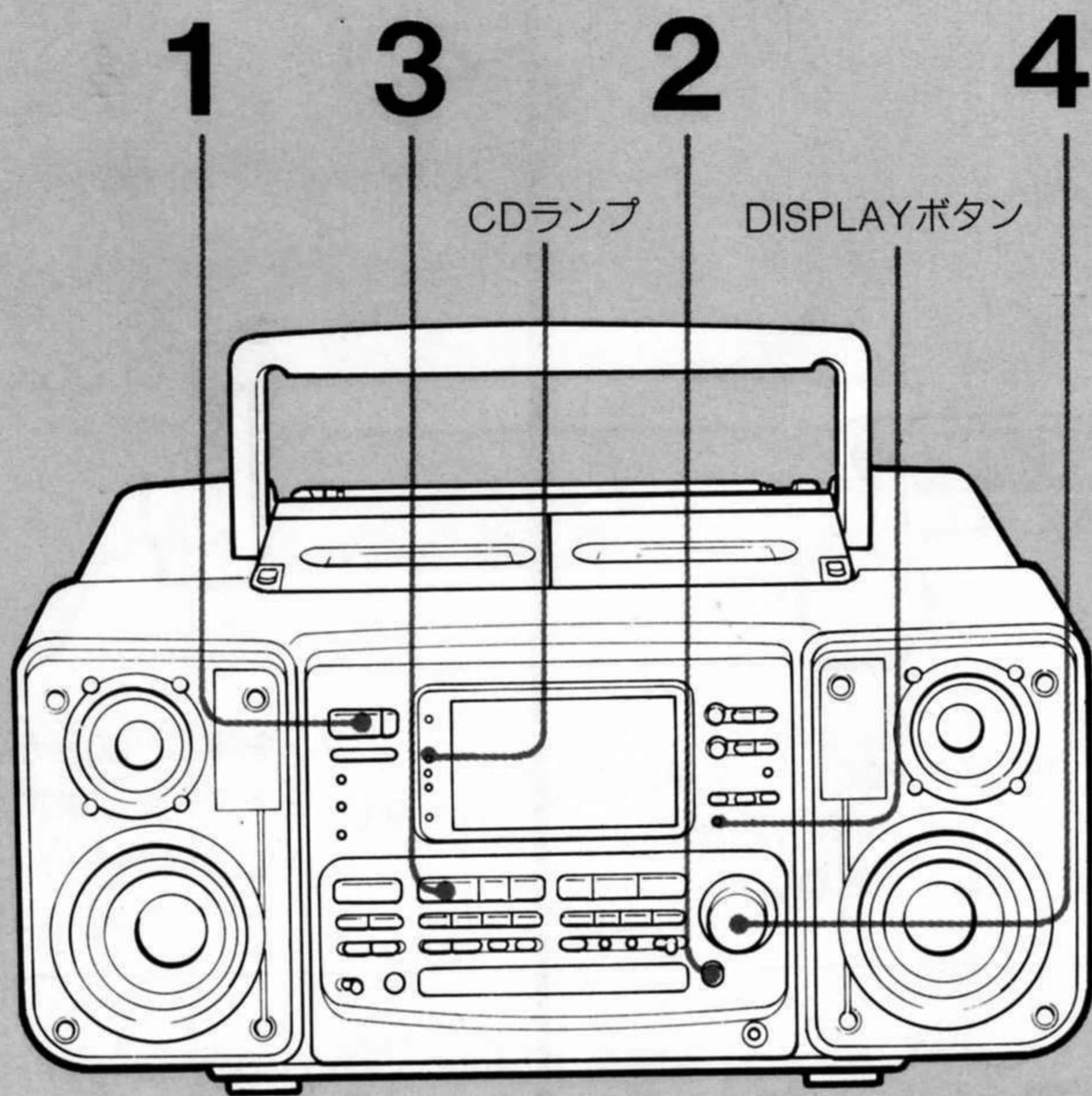


# ディスクを聞くには

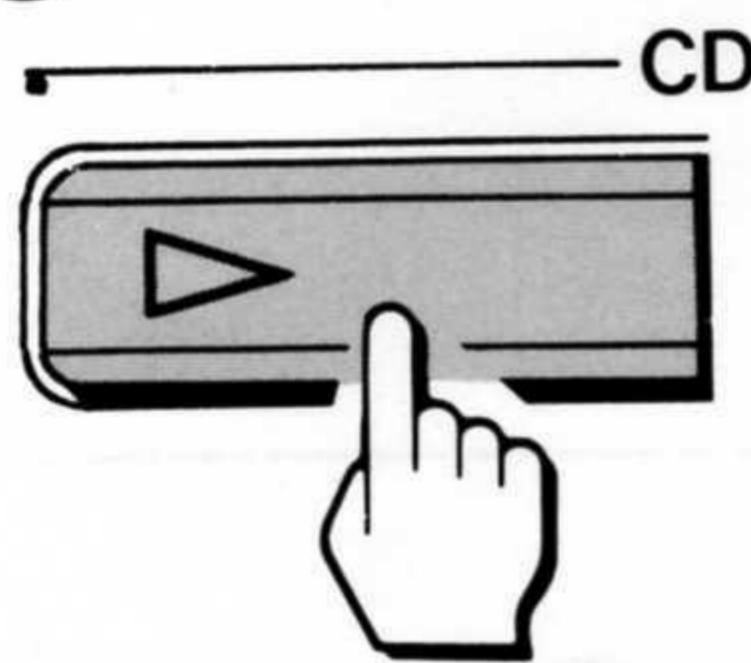
付属のリモコンを使って操作することもできます。  
8cmCDはアダプターなしで聞くことができます。



## 1 電源を入れる

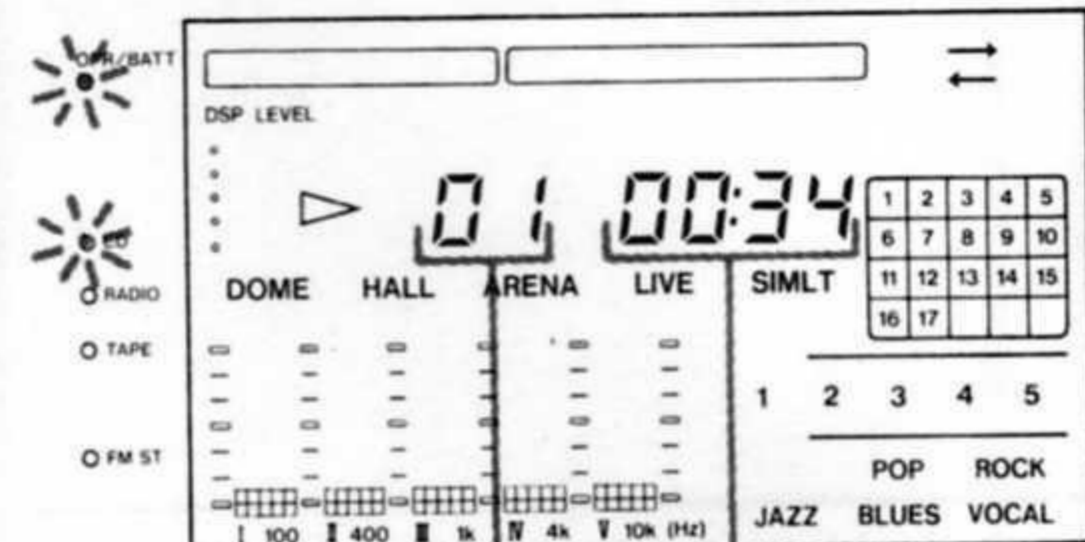


## 3 押す



CDランプが点灯します。

最初の曲から演奏が始まります。



演奏中の曲番

演奏経過時間

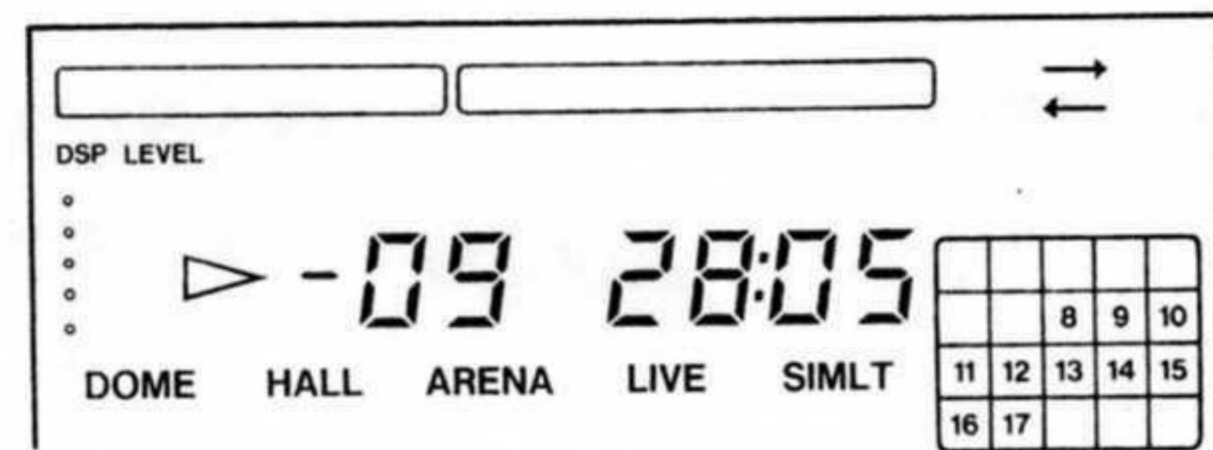
## ディスクの残り時間を調べるには

演奏中、DISPLAYボタンを押します。  
一回押すと、演奏中の残り時間が表示されます。



8曲目の終わりまで  
あと7分5秒

もう一回押すと、ディスク全体の残り時間と曲数が表示されます。



ディスクの終わりま  
であと9曲で28分5秒

通常の表示に戻すには、もう一回押します。

### ご注意

シャッフル演奏中やリピート演奏中は、ディスク全体の残り時間を表示させることはできません。

## 表示窓の見かた

「一時停止中」や「曲間」に表示される数字の意味は次のようになっています。

### 一時停止中には



5曲目の頭から  
1分17秒のところで  
一時停止中

### 曲間には

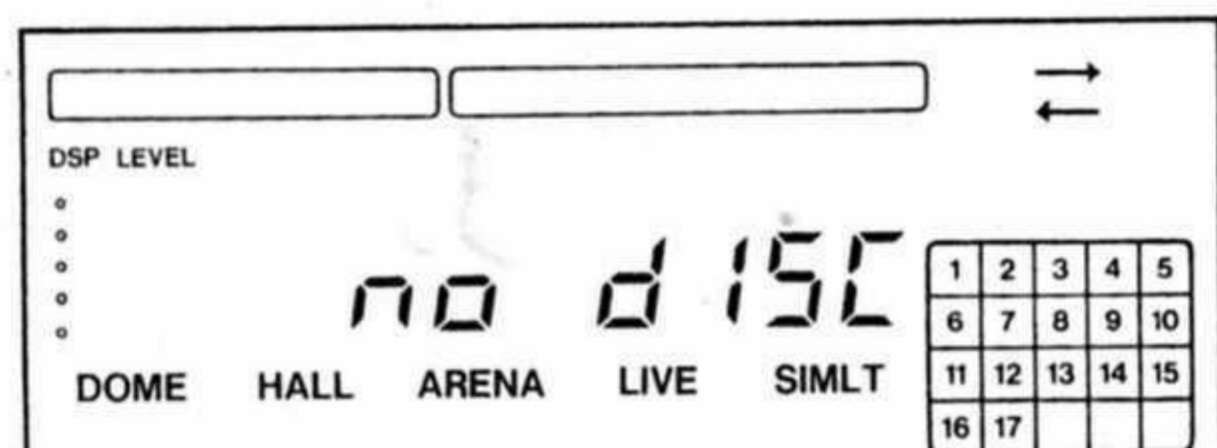
次の曲が始まるまでの時間が表示されます。



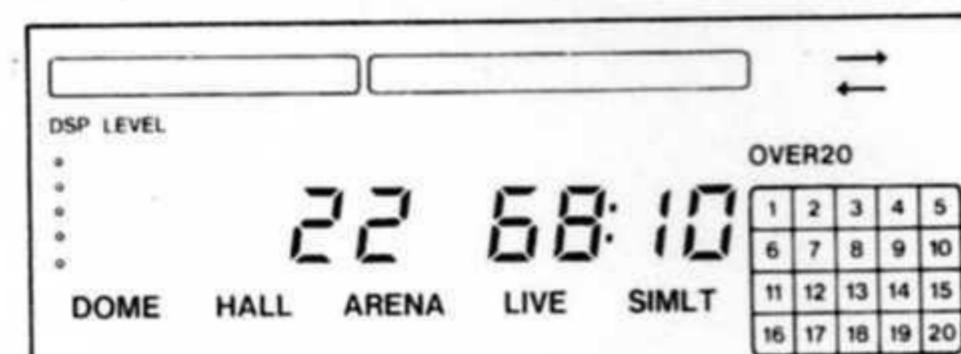
6曲目が始まるまで  
あと3秒

### ご注意

- ・テレビやラジオの近くでディスクを聞くと、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- ・ディスクがディスクトレイに入っていないと、数秒後に次のような表示に変わります。



- ・ミュージックカレンダーは20曲まで表示されます。
- ・21曲以上のディスクを入れますと、「OVER 20」と表示されます。



- ・21曲目以降の曲では、演奏中の曲の残り時間は「---:--」と表示されます。
- ・曲ごとの演奏経過時間は、演奏中に表示されています。
- ・停止時に全曲数と総演奏時間を見るには、DISPLAYボタンを押します。

2 **1** ▲OPEN/CLOSEボタンを押す。



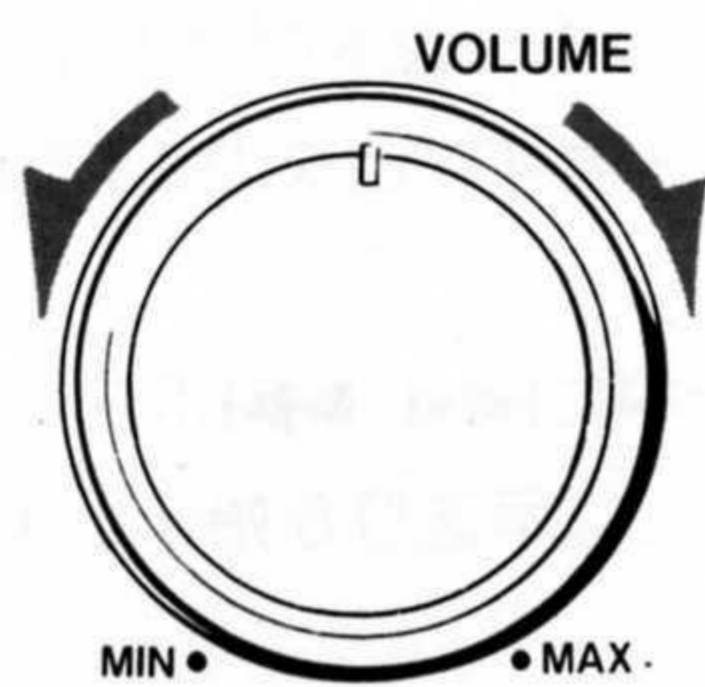
2 レーベル面を上にして中央を正しく合わせてのせる。



3 ▲OPEN/CLOSEボタンを押す。



## 4 音量を調節する



### 止めるには

	押すボタン	
	本 体	リモコン
一時停止するには	⏸	⏸
一時停止を解除するには	⏸	⏸
停止するには	⏹	■
ディスクを取り出すには	⏹ → ▲ OPEN/CLOSE	■ → ▲

\* 必ずディスクの回転が止まってから、▲OPEN/CLOSEボタンを押してください。

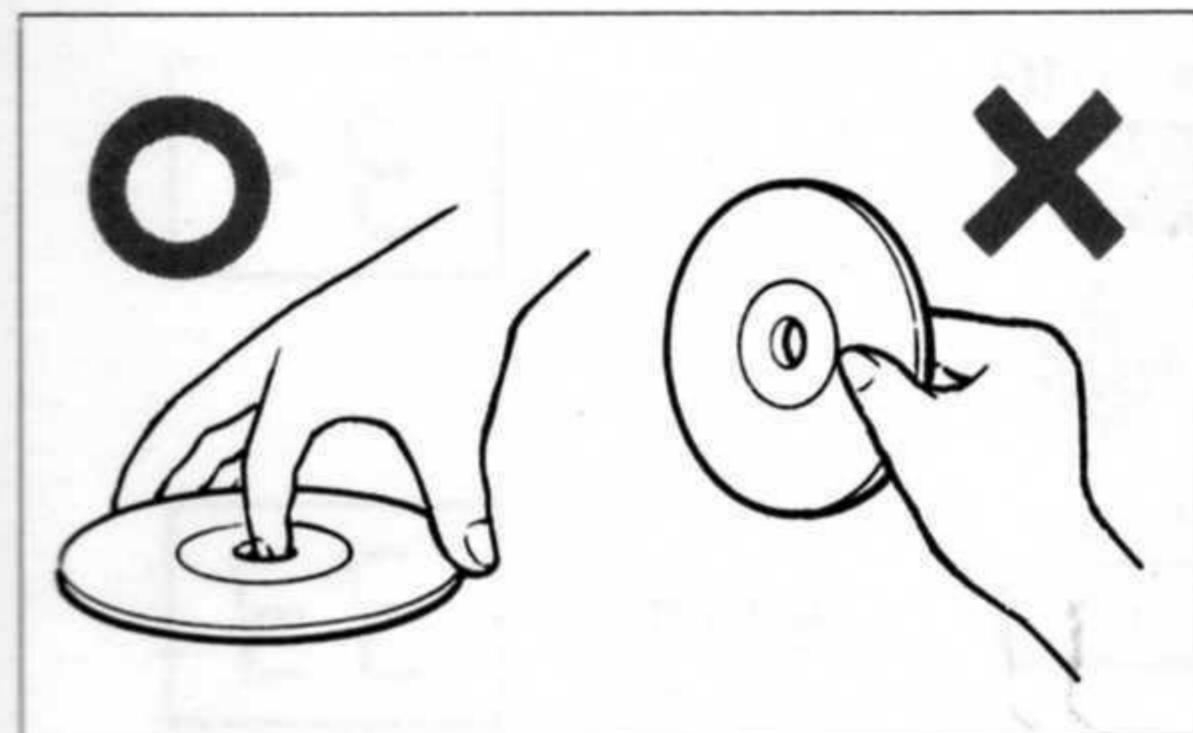
### 聞き終わったら

POWERボタンを押して電源を切ってください。

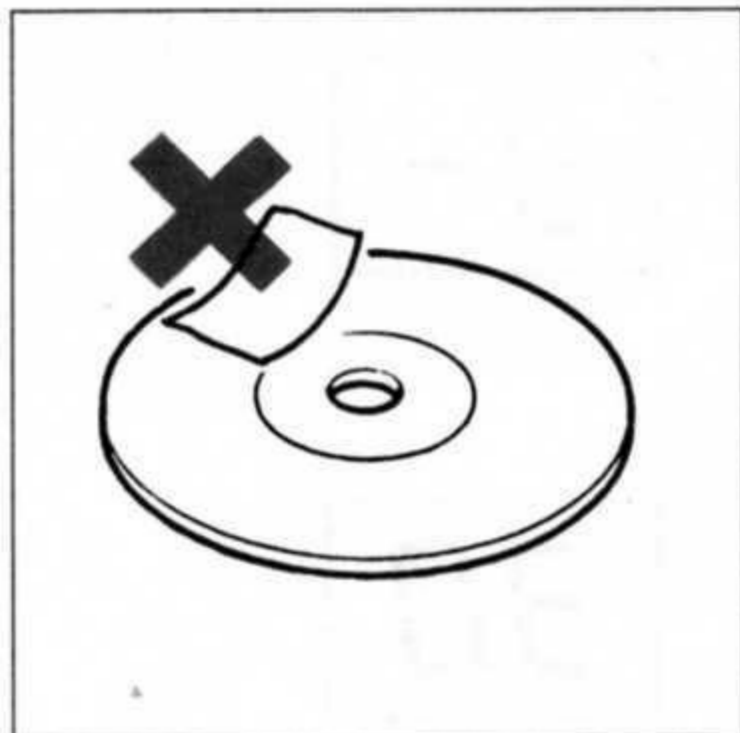
### ご注意

- ・コンパクトディスク (CD) はアナログ式と比べ非常に雑音が少なくなっています。気づかずに大きめの音量に調節すると、思わぬ大きな音量が出る場合があります。はじめに**必ず音量を最小にしておきましょう。**
- ・ディスクが回転しているときにPOWERボタン、FUNCTION切り換えボタン、▲OPEN/CLOSEボタン、BANDボタン、◀REVボタン、FWD▶ボタンを押した場合には、ディスクの回転が止まってから動作します。
- ・ディスクトレイが閉じるとき、本体およびリモコンの▶ボタンを押してすぐ◀◀ボタンを押さないでください。すべてのボタンを受けつけなくなることがあります。この場合には、電源コードをはずし、時計/タイマー/メモリー用乾電池を取り出し、表示窓の表示がすべて消えてから再び時計/タイマー/メモリー用乾電池を入れてください。

### ディスクの取り扱いかた



演奏面に触れないように持ちます。



紙などを貼ったり、傷をつけたりしないでください。

### 保存

- ・直射日光が当たるところなど高温の場所、湿度の高い所には置かないでください。
- ・特に夏季、直射日光下で閉めきった車のシート、ダッシュボードの上などはかなり高温になりますので、絶対に放置しないでください。
- ・長時間演奏しないときは、ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに、重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとその原因になります。

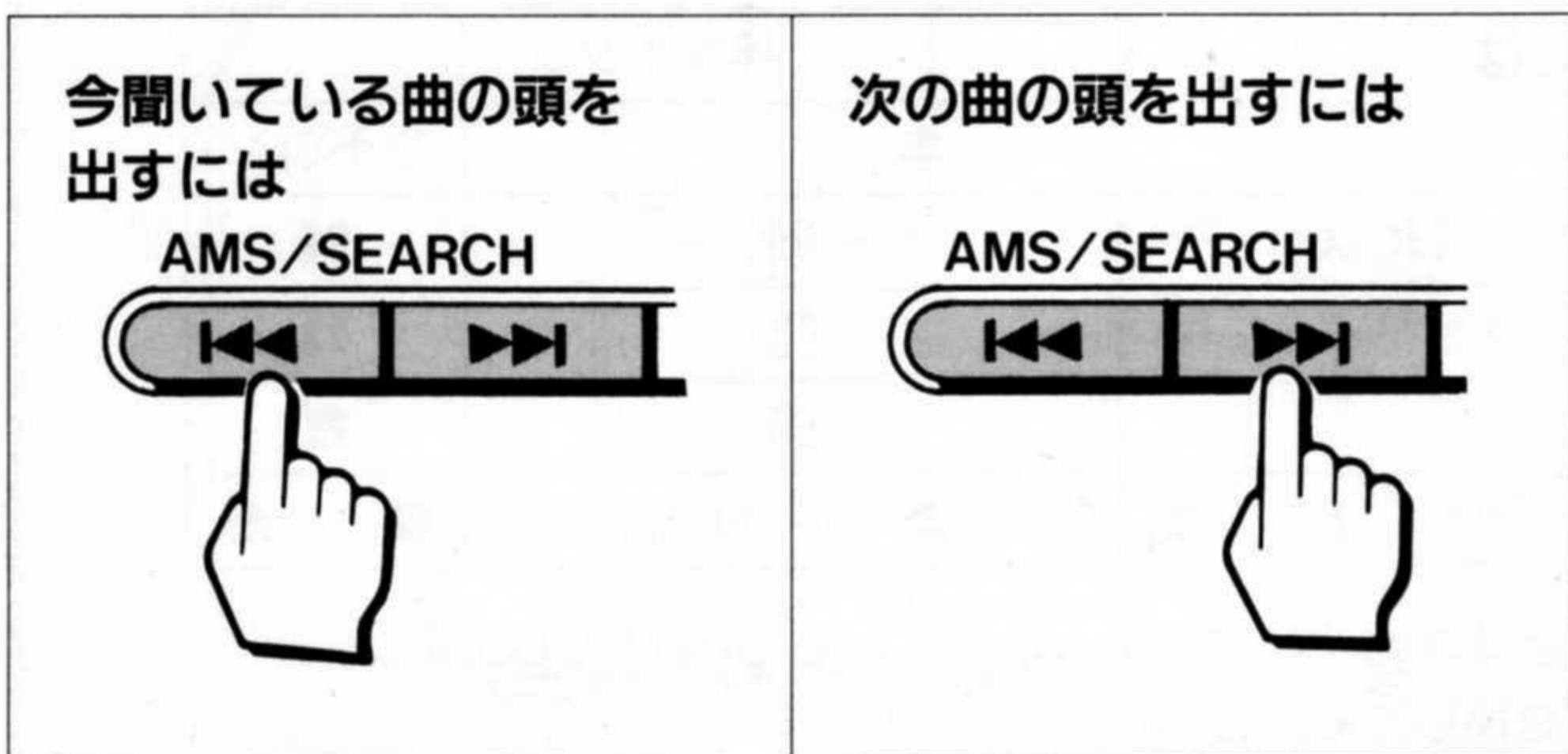
ディスクのお手入れについては⑦ページを参照してください。

聞きたい曲から聞くには

曲の頭を聞きながら選ぶには(AMS機能\*)

操作を始める前に、PGM、SHUFの表示が消えていることを確かめてください。どれかが表示されていたら、□(停止)ボタンを押して表示を消してください。

演奏中、または一時停止中に次の操作をします。



- 再生中に◀◀ボタンを一度押すと、再生中の曲の頭に戻ります。また、▶▶ボタンを一度押すと、次の曲の頭に移ります。
- 一時停止中に◀◀ボタンを一度押すと停止中の曲の頭に戻り、また▶▶ボタンを一度押すと次の曲の頭に移り、一時停止します。
- 再生中または一時停止中に◀◀/▶▶ボタンを約1秒以上押し続けると、早戻しまたは早送りが始まります。

オートマッチック ミュージック センサー

\* AMS : Automatic Music Sensor(自動音楽検出)の略。

曲の番号を直接選ぶには(ダイレクト選曲)

リモコンの数字ボタンを押して、選びます。

聞きたい曲の番号を押す  
すぐに演奏が始まります。

● 1	● 2	● 3	● 4	● 5
● 6	● 7	● 8	● 9	● 0
				● +10

10曲目以降の曲から演奏を始めたいときには  
● +10 を押した後 ● 1 ~ ● 0 を押します。

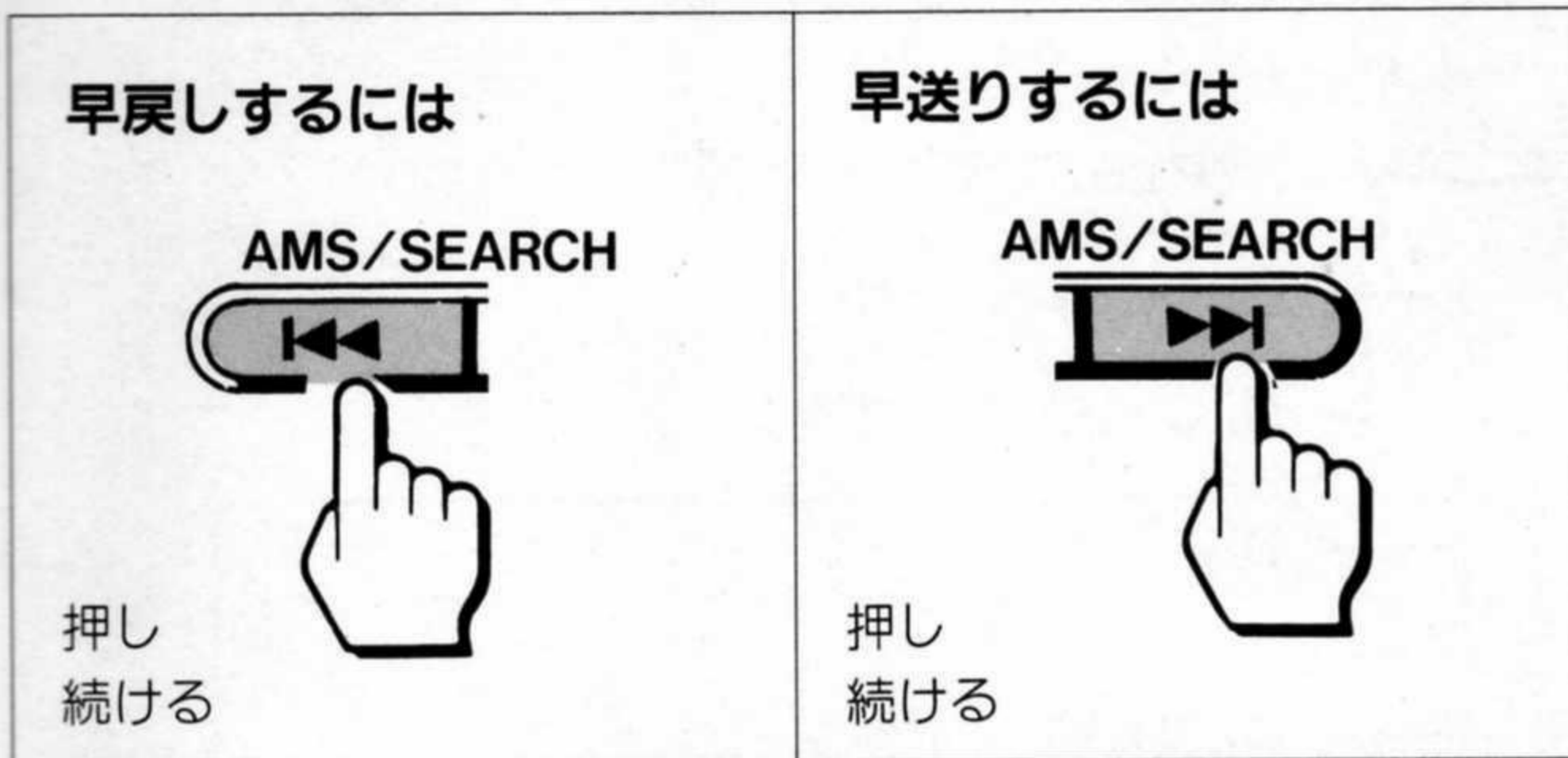
<p>例)</p> <p>10曲目から演奏するには</p> <p>● +10 を押す 表示 1 -</p> <p>↓</p> <p>● 0 を押す 表示 1 0</p>	<p>30曲目から演奏するには</p> <p>● +10 を押す 表示 1 -</p> <p>↓</p> <p>● +10 を押す 表示 2 -</p> <p>↓</p> <p>● +10 を押す 表示 3 -</p> <p>↓</p> <p>● 0 を押す 表示 3 0</p>	<p>33曲目から演奏するには</p> <p>● +10 を押す 表示 1 -</p> <p>↓</p> <p>● +10 を押す 表示 2 -</p> <p>↓</p> <p>● +10 を押す 表示 3 -</p> <p>↓</p> <p>● 3 を押す 表示 3 3</p>
--	--	--

## 聞きたいところから聞くには

### 早戻しや早送りするには(SEARCH機能)

演奏中、または一時停止中に次の操作をします。

#### 本体

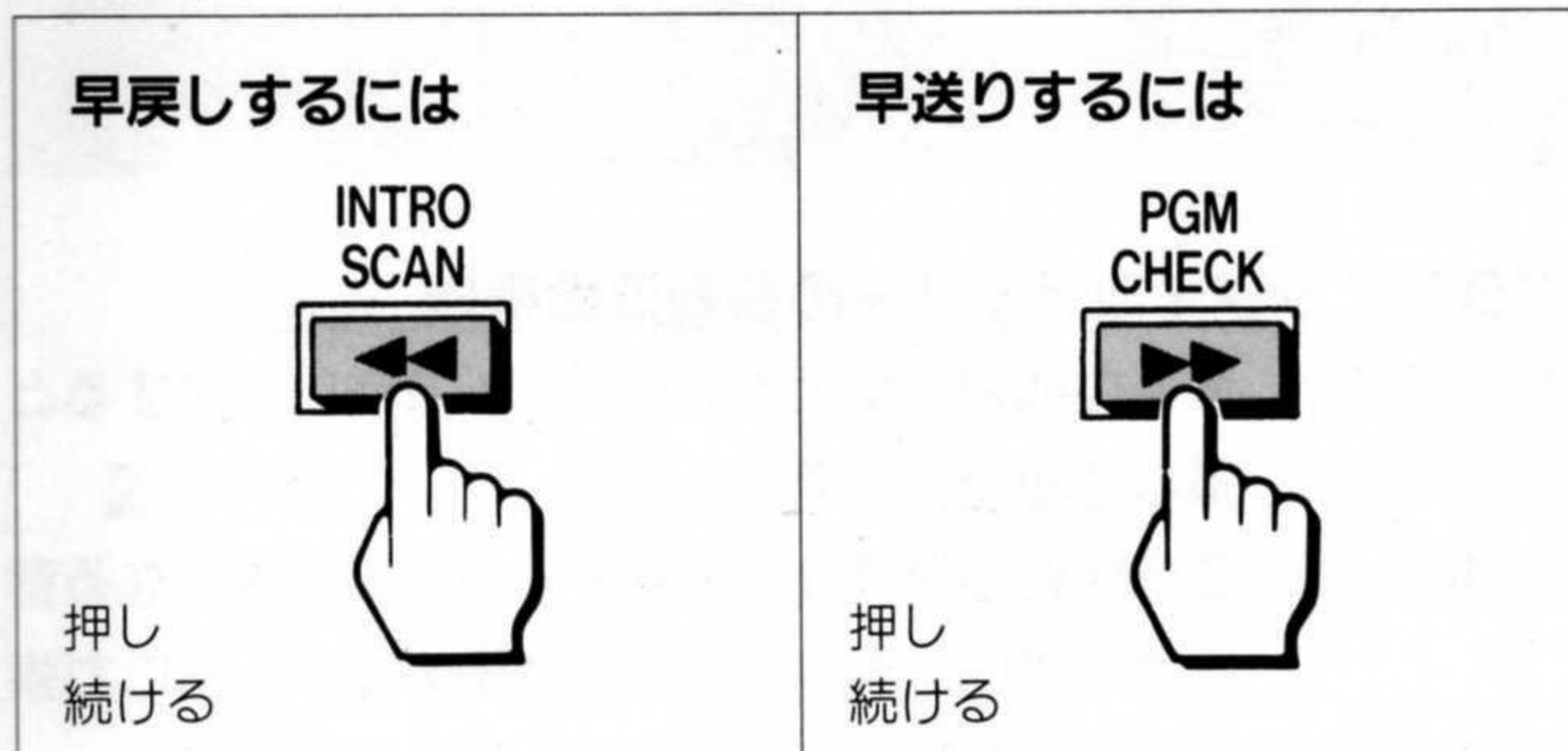


指を離すと、そこから聞けます。

演奏中本体のAMS/SEARCH (◀◀/▶▶) ボタン (リモコンでは◀◀/▶▶ ボタン) を押し続けると、早送りや早戻りの音が小さく聞こえます。この音を目安に希望のところで指を離してください。

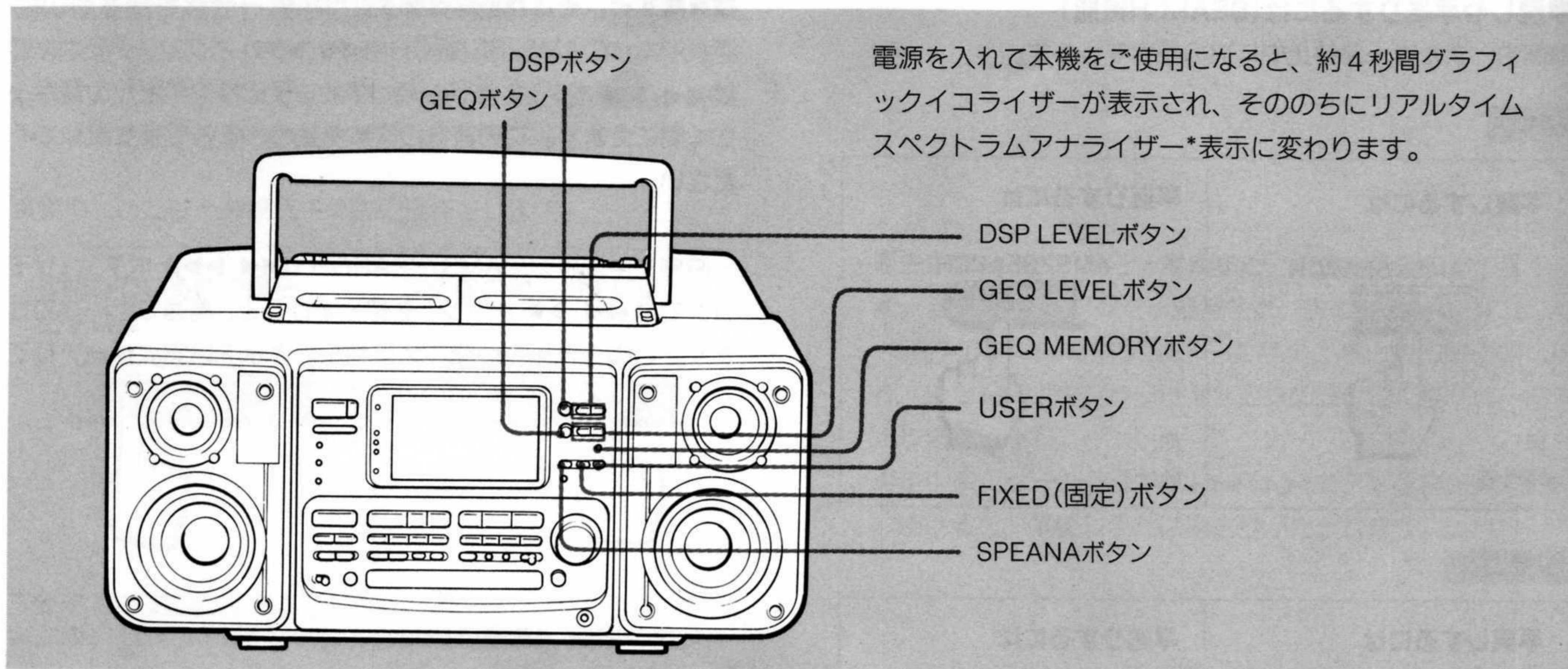
一時停止中に本体のAMS/SEARCH (◀◀/▶▶) ボタン (リモコンでは◀◀/▶▶ ボタン) を押し続けると、高速でサーチできます。このとき、音は聞こえません。表示を目安にサーチしてください。

#### リモコン



# 好みの音で聞くには

## イコライザーで音質補正をするには



電源を入れて本機をご使用になると、約4秒間グラフィックイコライザーが表示され、そののちにリアルタイムスペクトラムアナライザー\*表示に変わります。

### \*5分割リアルタイムスペクトラムアナライザーとは

周波数帯域を5分割し、各帯域におけるオーディオ信号をレベル表示します。また、分割周波数は5分割グラフィックイコライザーの周波数と一致していますので、イコライザー補正の効果量を目で確かめることができます。

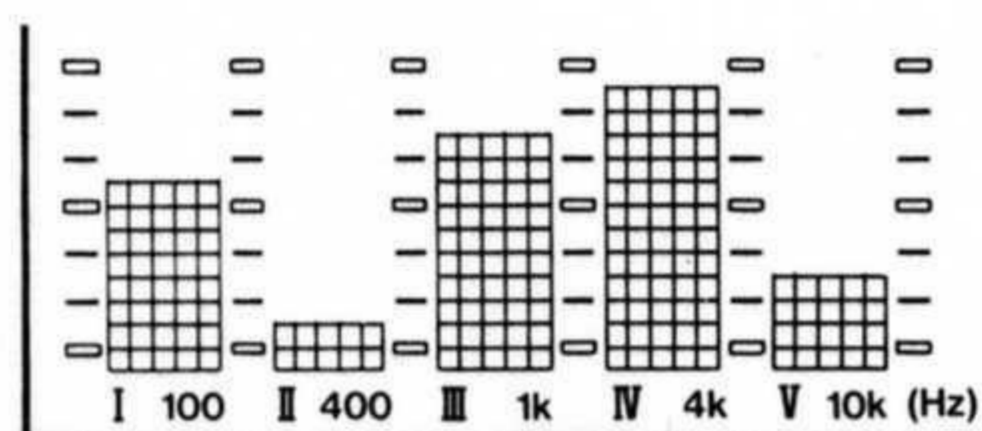
### リアルタイムスペクトラムアナライザーについて

本機には4種類のスペクトラムアナライザー表示のパターンが記憶されています。SPEANAボタンを押すたびにノーマル→ピークホールド→ミラー→ミラーネガ→ノーマル→…と切り換わります。表示窓を見ながら希望のパターンをお選びください。リモコンでも操作できます。

### グラフィックイコライザーの各周波数帯域

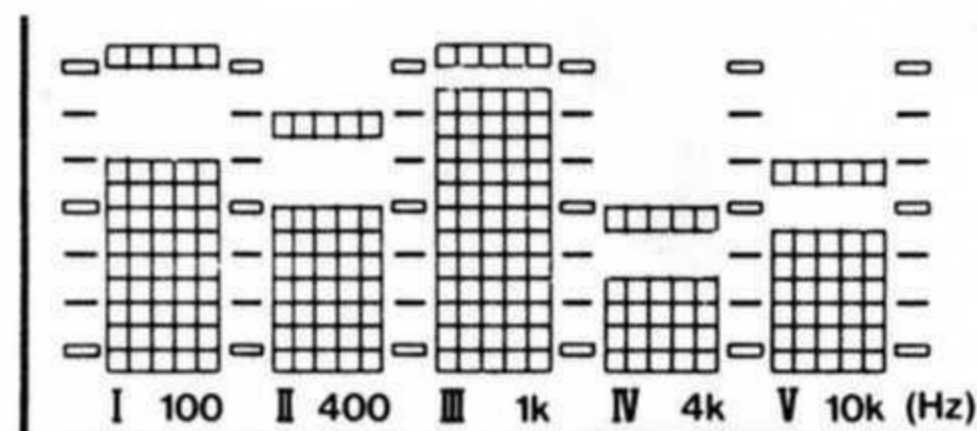
- I (100Hz) : 音楽の底辺を支える低音域。+方向に調節すると重低音が迫力を増します。
- II (400Hz) : この付近の帯域は、楽器や人の声の基本となる音を含んでいます。+方向に調節すると、音に力強さ、量感が加わります。
- III (1kHz) : +方向に調節すると、ボーカルの存在感を強調することができます。
- IV (4kHz) : 耳につきやすい音域で、+方向に調節すると、きらびやかな感じとなり、鋭い音が強調されます。
- V (10kHz) : 最高音部の音域が調節でき、高音域の雑音(ヒスノイズ)を抑えるときにも効果的です。

#### ノーマル



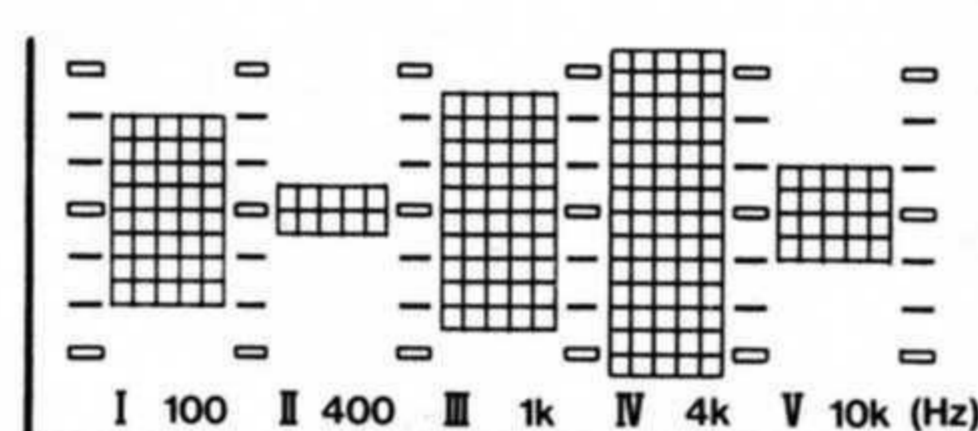
各音域の音の強さを表示します。

#### ピークホールド



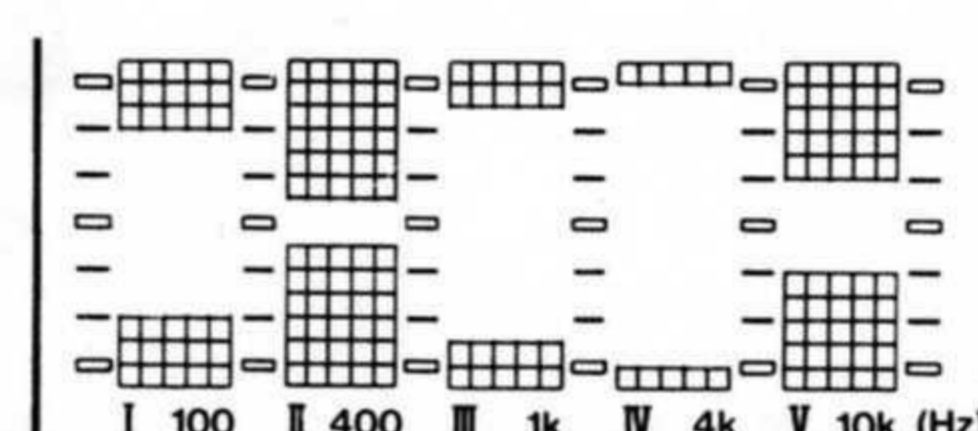
グラフの最高位を1、2秒強調(ホールド)して表示します。

#### ミラー



「ノーマル」のパターンをセンター中心にして上下対称に表示します。

#### ミラーネガ



「ミラー」の反転を表示します。

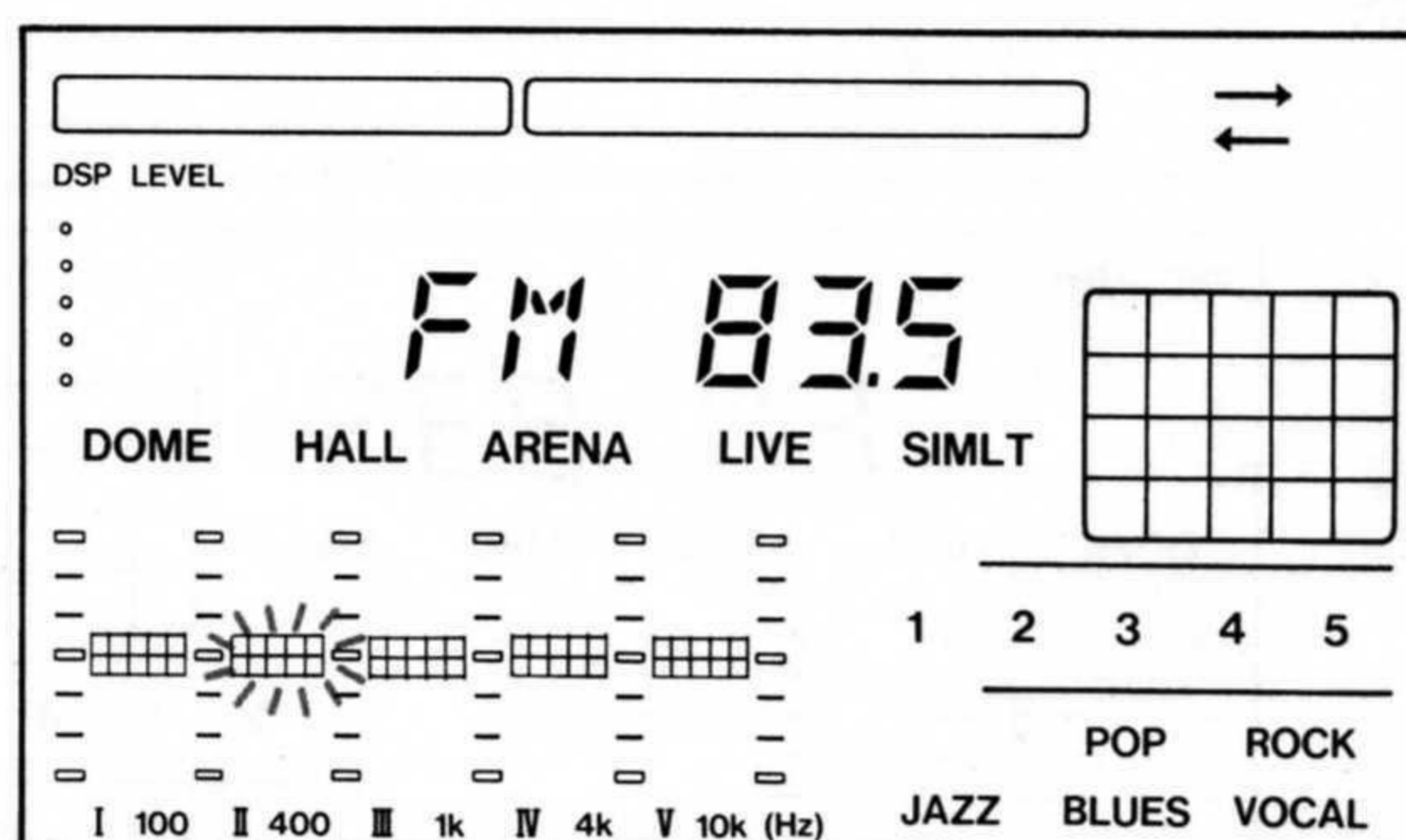
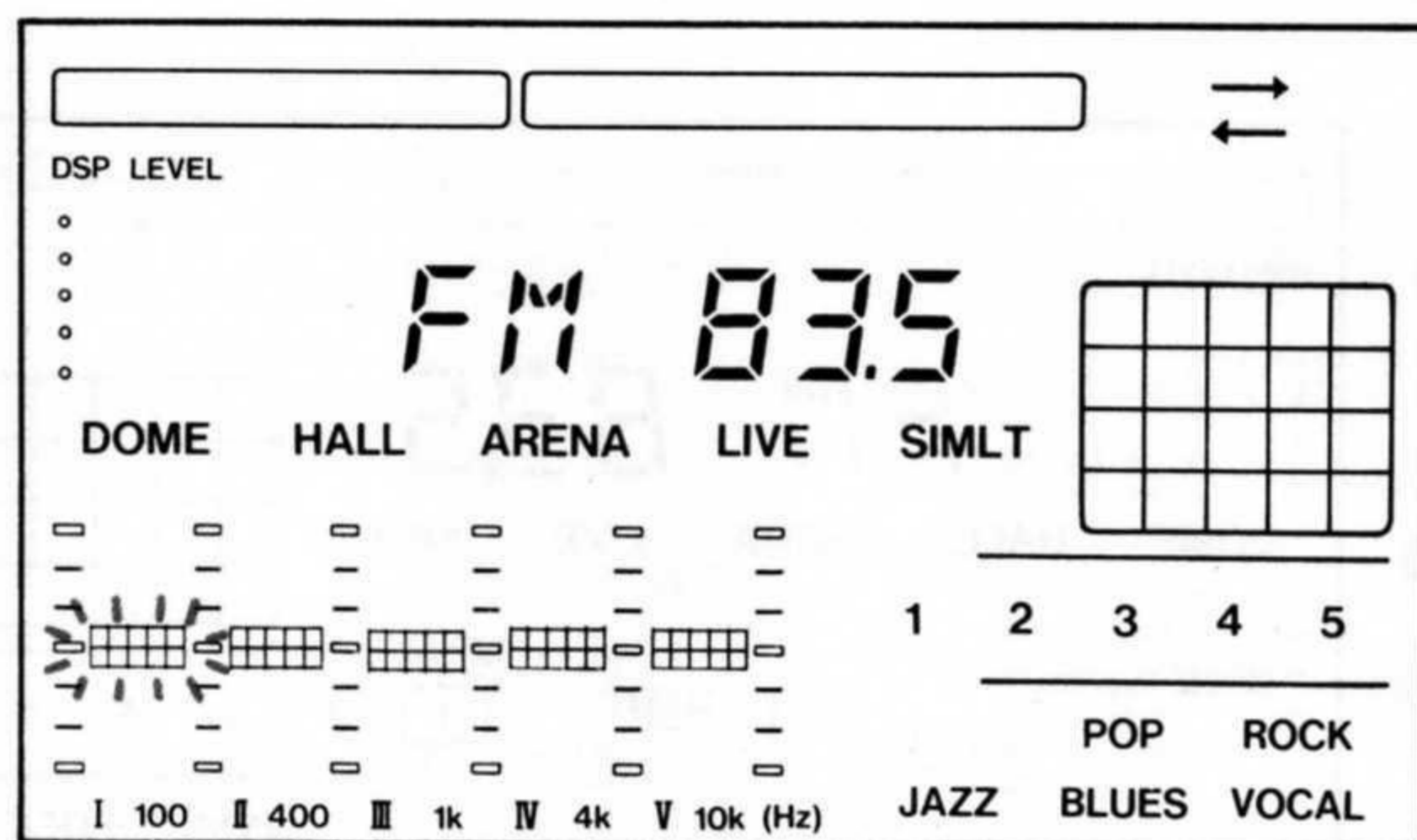
## グラフィックイコライザーの調節のしかた

補正のかかっていないフラットモード以外の場合は、GEQボタンが点灯します。

### 1 GEQボタンを押す。

ボタンを押すごとに、「I (100Hz) → II (400Hz) → III (1kHz) → IV (4kHz) → V (10kHz) → I (100Hz) …」と順番にグラフィックイコライザー表示が点滅していき、調節したい周波数帯域を選びます。

(例)



### 2 グラフィックイコライザー表示が点滅している間 (GEQボタンを押してから約8秒間) に、GEQ LEVELボタンの-/+を押してレベルを調節します。

GEQ LEVELボタンの-/+から指を離すと約8秒後にリアルタイムスペクトラムアナライザー表示に戻ります。

GEQ LEVELボタンの-/+を

CENTER、MAX、MINIのとき 1回

それ以外の場合 2回

押し、LEVEL表示が変わります。

#### ご注意

GEQ LEVELボタンは表示が点滅している間に押してください。

それ以外の場合に押してもレベルの調節はできません。

### 3 1、2の手順をくり返して各周波数帯域のイコライザーを調節する。

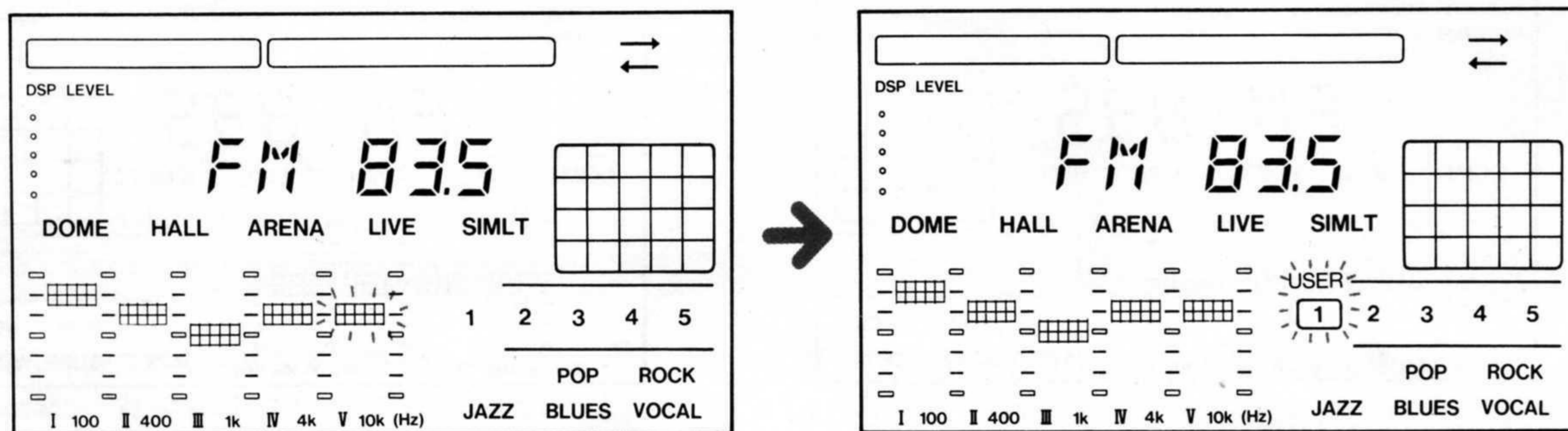
#### リモコンでの調節のしかた

GEQ I~Vの-/+ボタンを押すことによって、その周波数帯域を直接調節できます。また、FLATボタンを押すと、瞬時に補正のかかっていないフラットな状態にすることができます。

## グラフィックイコライザーパターンのプリセットのしかた

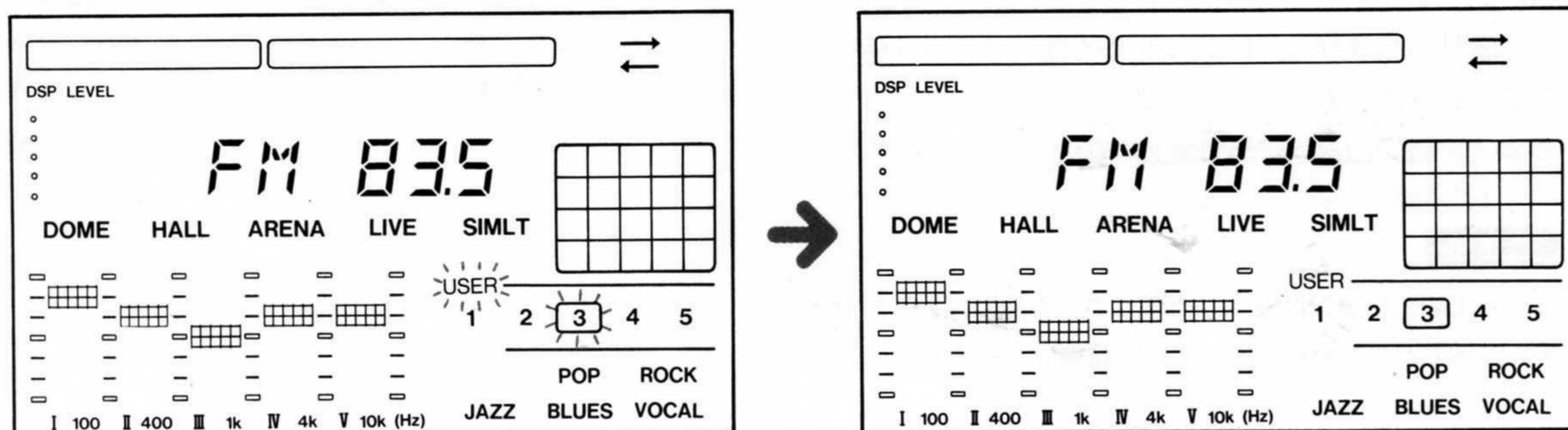
- 1 プリセットしたいパターンになるようにグラフィックイコライザーを調節する。  
(「グラフィックイコライザーの調節のしかた」参照)
- 2 グラフィックイコライザー表示が点滅している間(約8秒間)にGEQ MEMORYボタンを押す。  
「USER」と番号のわくが点滅します。

(例)



- 3 「USER」と番号のわくが点滅している間(約8秒間)にUSERボタンを押して希望のプリセット番号を選び、GEQ MEMORYボタンを押す。

(例)



### ご注意

リモコンでのプリセットはできません。

## GEQ FIXED(固定)メモリーについて

本機には、5種類のグラフィックイコライザーのパターンが記憶されています。FIXEDボタンを押すたびに、POP→ROCK→JAZZ→BLUES→VOCAL→フラットモード(通常の状態)→POP→…と切り換わります。表示窓を見ながら希望のパターンをお選びください。リモコンでも操作できます。

(フラットモード以外の場合は、GEQボタンが点灯します。)

- |             |   |
|-------------|---|
| POP(ポップ)    | 特に中、高音域を強調し、軽やかで明るい感じになります。ポップス系の音楽に適しています。                       |
| ROCK(ロック)   | 重低音と高音域を増強し、メリハリのきいた迫力サウンドになります。ビートのきいたロック系の音楽に適しています。            |
| JAZZ(ジャズ)   | 低音を持ち上げ、埋もれがちなベースの音などをはっきりさせ、ずっしりとした音質になります。ジャズ系の音楽に適しています。       |
| BLUES(ブルース) | 「ジャズ」よりさらに低音域を上げて、他の音域も少し上げているので、濃厚で存在感のある音になります。ブルース系の音楽に適しています。 |
| VOCAL(ボーカル) | 人の声の中心である中音域を強調することにより、ボーカルをきわだたせます。特にボーカルを聞きたいときに適しています。         |

ダイナミックレンジの広いクラシックなどの音楽をお聞きになるときは、フラットモードをおすすめします。

## DSPでサラウンド効果を楽しむには

マイクロコンピュータによってさまざまな音場が再現され、臨場感のあるサラウンド効果を楽しむことができます。本機には5種類のサラウンドモードが記憶されています。DSPボタンを押すたびにDOME→HALL→ARENA→LIVE→SIMLT→ノーマルモード→DOME→…と切り換わります。表示窓を見ながら希望のモードをお選びください。リモコンでも操作できます。(ノーマルモード以外の場合はDSPボタンが点灯します。)

- |                |   |
|----------------|---|
| DOME(ドーム)      | ドームやスタジアムなどの広い場所の音場です。<br>スタジオレコーディングのソースに、この効果を加えるとドームでのコンサートのようにゆったりとした響きを持った音になります。<br>ポップス系の音楽の再生に適しています。 |
| HALL(ホール)      | くせのない響きを持ったコンサートホールの音場になります。<br>中規模の合奏の再生に適しています。   |
| ARENA(アリーナ)    | ライブコンサートのアリーナ席の音場です。コンサートホールの快い響きとアーティストが目の前にいるような臨場感が同時に楽しめます。<br>ロックやボーカル曲の再生に適しています。                       |
| LIVE(ライブ)      | ライブハウスの音場です。シャキッとした反響音と左右に広がりのある残響音が特長です。<br>ジャズ系の音楽の再生に適しています。   |
| SIMLT(シミュレーテド) | SIMULATEDの略です。<br>AM放送などのモノラルソースの音をマイコンのデジタル信号処理によって反響音や残響音を人工的に作り出しステレオ感のある音にします。                            |

DSP LEVELボタンを使って各モードで5段階のレベル設定ができます。